

令和6年2月5日 JR東海と対話を進めてきた「47項目」の進捗状況を評価し、  
残された課題等を、現時点における「今後の主な対話項目」として整理

## I 水資源編

- 1 静岡県内の山梨工区工事中の県外流出量の全量戻し
- 2 リスク管理
- 3 モニタリング

## II 生物多様性編

- 1 沢の水生生物等への影響
- 2 沢の流量変化
- 3 回避・低減措置及び代償措置
- 4 高標高部の湧水と地下水のつながり
- 5 大井川本流の水質・水温の変化による底生生物等への影響

## III トンネル発生土編

- 1 発生土置き場

1

## I 水資源編(今後の主な対話項目)

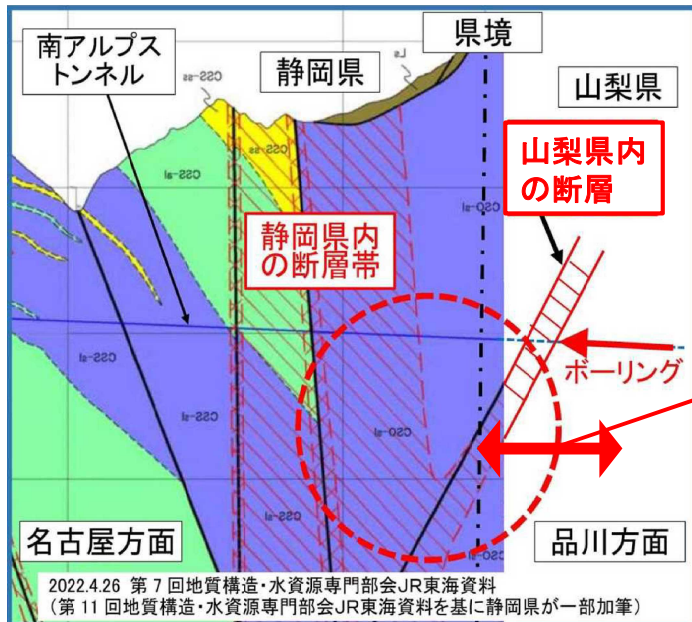
### 2 リスク管理

- (1) リスク管理
  - ・ リスク管理の手法(リスクマトリクス、リスクマップを使用)
  - ・ 予測の不確実性を低減するため、調査結果(ボーリングや湧水の化学分析結果等)を踏まえた**リスク評価の検証と見直し**
- (2) 田代ダム取水抑制案について(再掲)
  - ・ 取水抑制できない状態が継続する場合の対応
  - ・ 突発湧水など不測の事態への対応(連絡・協議体制など)
  - ・ 取水抑制するための水量が不足する不確実性への対応(湧水期を避けた施工の検討)
- (3) トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策について、突発湧水等のリスクへの対応
- (4) 山梨県内の高速長尺先進ボーリング、先進坑、本坑の掘削により健全な水循環への影響が懸念されることへの対応について、科学的な説明と本県等との合意(高速長尺先進ボーリングが、**県境から山梨県側へ約300mの地点に達する前**)

2

## 2(4) 山梨県内のトンネル工事による影響への懸念

- ・ 静岡県内の断層帯と山梨県内の断層が下で繋がっている可能性があることから、山梨県側からのボーリングによる健全な水循環への影響を懸念
- ・ トンネル工事が県境付近に近づくことによる健全な水循環への影響を懸念  
⇒ 高速長尺先進ボーリングが、JR東海が慎重に削孔を進める県境から山梨県側へ約300m区間の地点に達するまでに、懸念に対する対応が明確になることが重要



### JR東海が慎重に削孔を進めるとする区間(県境から約300mまでの区間)

- ◎ R5.1.25 第11回地質構造・水資源専門部会 JR東海資料  
「県境に近い区間(県境まで100mを目安)は慎重に削孔」
- ◎ R5.2.10 県指摘  
「県境から250m付近の山梨県内の断層が静岡県内の県境付近の断層帯と繋がっている可能性があることが考慮されていない」
- ◎ R5.2.23 県専門部会委員見解  
「余裕を持ち、県境300m手前から慎重に削孔するのが妥当」
- ◎ R5.3.20 第12回地質構造・水資源専門部会 JR東海資料  
「県境から約300m以内は慎重に管理を行う」

### 【対応を求めている内容: R5.1.31 静岡県発JR東海宛て文書】

- 1 ボーリングの管理項目と管理値
- 2 管理値を超えた場合の対応  
(静岡県側のモニタリングを含む)
- 3 結果報告の項目、方法、頻度
- 4 山梨県側へ流出する水の全量の戻し方  
(流出量測定方法などの具体的な方策を含む) 3

図 静岡県内の断層帯と繋がっている可能性のある山梨県内の断層